



特集展示

河村若芝

長崎

の系譜



長崎歴史文化博物館

2階歴史文化展示ゾーン 特集展示室

〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号

2018年

10月16日(火)～12月2日(日)

11月末まで 8時30分～19時 (最終入館30分前) ※11月19日は休館

12月から 8時30分～18時 (最終入館30分前)

観覧料 大人600円(480円) 小中高生300円(240円)

※常設展観覧料込 ※長崎県内の小中学生無料、○は15名以上の団体料金

※障がい者手帳(身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳)保持者及び介護者1名無料

電話 095 (818) 8369 http://www.nmhc.jp



右…河村若芝筆《布袋渡河図》部分
中央下…山本若麟筆《睡虎図》部分
左…山本若麟筆《水呑虎図》部分
全て当館蔵



長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture

「唐絵の祖」逸然に学んだ若芝

若芝・若元・若麟・若融・若瑞……じゃく・じゃく・じゃくと「若」の字が並ぶのは、河村若芝と彼の画技を引き継いだ人々の名前です。

河村若芝（一六三八～一七〇七）は肥前佐賀の竜造寺家の人とされています。故あって隠遁し長崎へやってきた若芝は、中国・浙江省出身の貿易商で、のちに黄檗僧として興福寺住持をつとめた逸然性融（一六〇一～一六八）に画を学びました。

また、黄檗僧たちと親しく交流し、渡来僧木庵からは金工の腐食象眼の法を学んだとされ「若芝」の銘が刻まれた、いわゆる「若芝罽」は長崎の罽のブランドとして人気を博し、若芝の名を引き継いだ人々によって制作されました。



河村若芝画・隠元隆琦賛《白衣観音観瀑図》



逸然性融画・即非如一賛《白衣観音観瀑図》

長崎で受け継がれた「若」

の字と技

本展では若芝の作品を中心としつつ、「若」の字を受け継ぎ、長崎の地で活躍した人々についてご紹介します。若芝の弟子ひとり上野若元（二六六八～一七四四）は道釈人物画に限らず、鮮やかな花鳥画のほか僧侶の肖像画である頂相を手掛けています。その子である山本若麟、芦塚若鳳の兄弟も揃って画を修めました。

彼らは「若」の字を受け継ぎ、画を描き続けましたが、若芝が描いた羅漢や布袋といった道釈人物画よりも、頂相や花鳥画が多く残されていることから、長崎の人々に身近な画題を、より親しみやすい作風で描くように変わっていったのではないかと考えられます。近年ではくunchiで使用される銀屋町の傘鉾制作に、若麟の子若瑞が関与していた可能性が指摘され、市井の絵師として長崎の人々のために活躍していた様子を想像させます。

唐絵目利や御用絵師とは少し違った長崎の絵画を、「若」の系譜から辿ります。



上野若元筆《松竹梅双鶴図》



上野若元筆《臨済大師像》興福寺蔵



若芝（八代）是高《雲龍文罽》

〈アクセス〉

路面電車「桜町」電停下車、徒歩5分
 路面電車「市民会館」電停下車、徒歩7分
 路線バス「桜町公園前」バス停下車、徒歩3分
 県営バス（風頭町行）「歴史文化博物館」
 バス停下車（1時間毎）
 長崎自動車道（長崎芒塚IC）より、諏訪神社方面へ10分

〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号
 TEL.095-818-8366 FAX.095-818-8407



長崎歴史文化博物館
 Nagasaki Museum of History and Culture

2018年
10月16日（火）
-12月2日（日）

※11月19日は休館